



水彩で色をつけたよ！



葉っぱの形は・・・



ジャンケンして決めようよ！！



大根が大きくなっているかな！！

CASE 13

5歳児



大根のわくわく収穫日！

協力園
中津市
如水こども園

(幼児の実態)

十月に種をまいて収穫の日まで成長を観察してきた子どもたち。いよいよ今日、大根収穫日です。土の中の大根はどうなっているのだろうかとわくわくしています。葉は大きく長く上に伸びています。「大根の色は白」と確信していますが、「大きさは？」と、手を広げて、これくらいかなと迷いながら表現しています。

畑には、大根の葉がとても立派に育っています。収穫の前に、種まき、発芽、間引きを経験したこと、葉が大きくなるにつれて大根の大きさが気になってきたことを思い出しています。

葉を眺めながら子どもたちは、「どの大根にしよう！！」、「先生！ 何本抜いていい？」と言いながら大根の収穫に心が躍ります。

「他のクラスの子達の分もあるから、一人一本かな、どれを抜いてもいいよ」と保育者から伝えられると、一本の大根を選ぶのに迷っています。「こっちの方が大きいか」とかがみ込み、大根の葉を寄せて、土の中の大根に話し掛けてるように見えます。

「これに決めた！」と葉が長く伸びている大根を選んだA児が「ぼくが選んだのをBちゃんも選んだらどうしたらいい？」と。

「それは大変だ！ どうしたらいいかな、どうする？」と保育者。C児が「ジャンケンしたらいいじゃない」と提案。「それがいい」と他の子どもも同意してジャンケンで決めるルールができました。すると畑の真ん中に一番生い茂っている葉の周りに4人が集まっています。葉の様子から大根の大きさを想像しているようです。「これ、大きそうや、ジャンケンやなあ」と。4人でジャンケンになりました。二人ずつジャンケンをして勝ち抜きで決めていきます。

それぞれ選んだ大根が決まり、みんなで一斉に大根を抜くことになりました。勢いよく葉を引っ張ったS児が「葉の上を持って抜いたら葉っぱだけちぎれた！」と。その声に子どもたちの手が止まって抜くことに躊躇しています。その様子に「大根も一緒に抜けるにはどうしたらいいのかな」と保育者も一緒に考えています。

子どもたちは、色んな部分に手を当てて確かめ合った結果、葉と大根の繋ぎの部分を持って抜くと、大根がうまく抜けそうな気がしてきました。その後、子どもたちの思いが通じて無事に大根が抜け、みんなで拍手して喜び合いました。

2本同時に抜いてしまったB児は、「しまった」の表情で一本しよんと片方を離そうとしますが土がくっついて外れません。B児の様子に気付いたK児が「小さいけん2本でもいいやん」と伝えていますが、一人一本の約束を守ろうと思ったB児は、土を必死に落として「はずれたあ」とほっとしています。

形も大きさも様々ですが自分たちで育てた大根を自分の手で収穫したことに満足しているようです。さらに、「子どもたちは、土のついた大根を友達と見比べながら、「大根は少し僕の方が大きい」、「葉っぱがいっぱいいついている」、「ぼくのは、長いひげがある」、「葉が大きいな、葉っぱのなかに線がいっぱいある」、「Dちゃんの、下の方が分かれている」、「大根より葉の方が長いな」と自慢気に伝え合っています。

収穫した喜びと満足感を味わったことで、室内に入ると身近に置いてある四ツ切画用紙にマジックの細ペンで自分の大根を描く姿がクラス全体に広がってきました。思いっきり大根を大きく描き、葉をつけていくE児、葉脈を細やかに表現するT児、大根の土の部分も丁寧に描写するS児、どの子どもも粘り強く取り組んでいます。水彩絵の具で色塗りも始まりました。同じ葉でも部分で色が微妙に違うことに気づき、水を足して濃さを変えたり、違う色を混ぜたりして自分なりの表現で大根描画が完成しました。

今日、収穫した大根は持ち帰り、親子でメニューを相談して家庭の食卓に登場する予定です。夕食の話題は「わくわく大根収穫」になりそうです。

豊かな感性と表現 環境構成のポイント

- 自分たちで育てた大根（種まき、間引き、成長していく過程で世話と観察）であることから大根をより身近に感じ、豊かな経験につながる環境。
- 子どもたちから発信する言葉や姿を共有、共感する保育者の存在。
- 考えや気づきの言葉をやり取りできる友達の存在。
- 細やかに伸び伸びとした描画につながるようなマジックの細ペンと4ツ切画用紙をいつも身近に置かれていること。

事例から見られる10の育ち

道徳性・規範意識の芽生え

同じ大根を選んだときはどうするか、「じゃんけんして決めよう」と子どもたちでルールを決めたことや4人でジャンケンをする際に勝ち抜きを取り入れルールを守ろうとする姿。また、「一人一本」の割り当てを守ろうとするB児の姿からみんなで決めたことを守ろうとしたり、自分さえよければいいのではなく、他のクラスのことも考えたりすることが出来ている。

事例から見られる10の育ち

豊かな感性と表現

成長の過程を味わいながら育てた大根の収穫日を迎えた喜び、満足感。友達の大根と見比べて気づいたことを自分なりの言葉で表現している。大根の描画では、気づきをマジックの細ペンで細やかに描こうとしたり、色を単に塗るだけではなく、葉の様子を色の濃さを考えて表現したりする姿から特徴を捉え、感じたことを自分なりに表現していることにつながっているとと思われる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「10の姿」

道徳性・規範意識の芽生え

豊かな感性と表現

自然との関わり
命の尊重

言葉による伝え合い

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。